

ななきさとえ

『パンドラの呪文』CD化

の意義についての私的考察

“音齋処” 横田 文孝

2020年二月二十一日に発売された、ななきさとえ「パンドラの呪文」CDに収められている音は、紛れもなくアナログ盤LPに刻み込まれている音そのものです。と云うのもこのCDは、所謂「盤起こし」で作られたものだからです。その経緯については、LP「パンドラの呪文」制作時のマスターテープが一般的な事情で失われてしまい、苦肉の策として選択した方法がこの盤起こしだったことが、ご本人のブログから窺えます。そこで今回の盤起こしによるCD化の意義について、私なりの考察を巡らせてみたいと思います。

結論から云えば、これまで聴き手のアナログ盤再生装置の限界により聴き取れなかった音のみならず、収録時の現場の雰囲気・空気に感・緊張感までも、再生装置に左右されずに伝えられるようになったこと、です。

恐らく、今回の手法でアナログ盤としてリリースしたなら、これ程の演奏迫力を伝え切れなかったのではないかと、とも思われます。理由は、アナログ盤は再生環境（再生機器）に依存する部分が大き過ぎることにあります。デジタルのメリットは、再生環境への依存度を、アナログに比べ、大幅に低減できることにあります。勿論再生装置もちろんに関しては、アナログ、デジタルともに高価格から普及価格まで様々な製品がありますが、アナログに比べてデジタルの価格による性能の差は少ないこと云えます：（本当かな？）。

ななきさとえ「パンドラの呪文」のCD化に当たっては、エルグイエム LVM (レーザーヴァイナルマスター Laser Vinyl master) と云う手法（技術）が使われています。一言ひとことで云えば「レーザーターンテーブルを使用した盤起こし」ですが、これは株式会社エルプが独自に開発したものです。

「LVM」は、単にレーザーターンテーブルを使用してアナログ盤音源を収録（デジタル・アイカイヴ）するだけではありません。レーザーターンテーブルの機種も限定されており、電源を始め、音に影響すると思われる機材全般に渡り最適なものが選ばれています。

また、音源とするアナログ盤も（可能な限り）複数枚を聴き比べ、最も状態の良い盤を使用するのです。こうすることでアナログ音源を、マスターテープと遜色そんしよくのない音を持つデジタル音源へと変換することができるので。す。（ここで云うマスターテープは、いわゆるツミ所謂2ミックスで、ステレオ音源のことです。）

詳しいことは知りませんが、マスターテープからCDを制作する場合は、どうもCDに最適化させる為様々な調整をするようなのです。 「CDに最適化された調整」とは、例えば音圧を調整したり、イコライザーで音のバランスを整えたり、といったものです。（マスターテープがマルチトラックの場合は、トラック毎にこうした調整が入り、ステレオ用にミックスダウンも行われるはずですが。）その結果、オリジナル音源であるアナログ盤とは異なる音調おんちようとなってしまう。（上記のは異なる音調おんちようとは正しい表現・用語法ではないか）もしれませんが、オリジナルとは異なる雰囲気きになっってしまうと云うことです。）

他方「レ」では、アナログ盤をマスターとし、この音源に対して音圧調整ラウドネスやイコライザー処理を行わないため、オリジナル盤の雰囲気そこを損なうことがありません。その結果「パンドラの呪文」CDでは、オリジナル盤で感じら

れた雰囲気じゅうにぶんを十二分に残した作品となっています。

『CD化では音源アーカイヴにレーザーインターバルを採用したことでアナログ盤の持つ深みと広がりのある音を再現した。∞年代インディーズシーンの皆全員レーザーインターバルでCD化すればいいのに。』とはご本人の弁です。《Twitferより引用》²⁾

では「¹⁾」でのCD化は一体いったいなにがどう違うのだろう：：そんな疑問が湧くことと思いません。

「¹⁾」でのマスター音源作成時には、そのリソースの八十パーセント以上をアーカイヴに集中し、残り二十パーセント近くをアーカイヴ音源のノイズ除去あに充あてています。つまり、厳選された機材とレコード盤を使って、比べ物がないほど純度の高い音源をアーカイヴできることが、「¹⁾」でのCD化の最大の利点と

云えます。

殊ことに「パンドラの呪文」の様にアルバムとしての完成度が非常に高い作品においては、この純度の高さが最も重要となります。純度の高い音をアーカイヴできれば、アナログ盤のもつ独特の雰囲気、風合いをデジタルファイルの中に閉じこめることができます。その上で、楽曲としては不要となるアナログ盤特有のノイズを除去すれば、極めて完成度の高いデジタルマスターを作成することができるとは、わけです。

ここまで縷々るる述べてきましたが、CD化の意義とは、アナログ盤よみがえに閉じこめられていた収録当時の熱気を蘇らせ、次の世代へ引き継ぎ可能な状態にしたことであり、これは云わばアーティストとしての視点といえます。

しかし今回の盤起こしによるCD化の意義には、「経済的側面」という、今一つの視点

が存在します。

Twitterで、ある方[㊟]が《角松敏生『See Breeze』同様ELPレーザータンテール駆使し当時の鮮烈さのまままで復刻^㊿と記^しされて

いるのが目に留^とまりました。この時私の頭を

過^よったのは、何故^なか、ポールが頭を振り振り

絶唱する *MONEY (That's What I Want)* だっ

たのです。

思うに、角松敏生^{かどまつとしき}さんはメジャーレベル、

ななきさとえ^{ななきさとえ}さんはインディーズと、レベル

ルの資本力からして制作費には雲泥^{うんでい}の差があ

るのが当然のことです。しかも今回のCD化

は、ななきさん個人が止^やむに止^やまれぬ衝動・

情熱をもって『好的開始』されたもの^{おの}のよう

です。従って利用可能なリソースにも自^{おの}ずと

制約があると考えるのが一般的でしょう。制

作環境にこれ程の差があるにもかかわらず、

このCDの出来栄^{できざ}はもう、メジャーレベル

ルに匹敵する、いや、それを凌駕するもの
なのです。

先に紹介したご本人の弁『80年代インディーズシーンの皆全員リーダーテーブルでCD化すればいいのに。』の中には、こうした経済的側面をも含意した思いや懐があるのではないでしようか。

今回ななきさとえ「パンドラの呪文」のCD化が我々に示してくれたのは、

マスターテープが無い、

資本力が無い、

それが故に忘れ去られたり、

望まれながらCD化等の復刻・再発に手が

付けられていない、

アナログ名盤の数々を、今一度世に問う一つの方法でもあります。

その意味でこの「パンドラの呪文」CDの発売は、音楽業界にとっても大いに意義のあることだと考えます。

《完》

1 この点に関しては、様々な異論・反論があることは承知しておりますが、本考
察では詳細の記述は避けております。ご了承ください。

2 《ななきさんご本人のツイートより引用》



3 《北村+和孝氏のツイートより引用》

